

回数	日時	テーマ	参加人数	決定事項
第1回	6月27日（金）	○取扱要領の変更と正副委員長の選任について ○地域発信型ネットワークの機能と役割について ○今年度の進め方と年間スケジュールについて	13人	<ul style="list-style-type: none"> ・正副委員長の選任 ・取扱要領の文言の補足説明を作成する ・（改編した最初の会議はとても大切なので）第1回小地域福祉ブロック会議の内容を次回検討する
第2回	8月6日（水）	○取扱要領補足説明について ○小地域福祉ブロック会議の開催について	14人	<ul style="list-style-type: none"> ・構成員は、実際に小地域福祉ブロック会議に参加し、意見や感想などをフィードバックする役を担う ・「地域福祉を高めるための中長期のビジョンの明確化」「福祉の担い手づくり」「自治会と福祉活動との連携の仕掛けづくり」の3つの課題に対して、今後協議していく
第3回	10月21日（火）	○第1回小地域福祉ブロック会議の報告について ○中学校区福祉ネットワーク会議の開催について	12人	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区福祉ネットワーク会議は、「会議の位置づけ」「これまでの取り組み」「今年度の報告」等を目的に年明けまでに各地区で開催していく ・中学校区福祉ネットワーク会議の活用の仕方については、継続して検討する
第4回	12月16日（火）	○第2回小地域福祉ブロック会議の報告について ○第1回中学校区福祉ネットワーク会議の報告について ○地域から挙がってきた課題について	14人	<ul style="list-style-type: none"> ・小地域福祉ブロック会議には、地域の実態把握と共に、福祉ニーズをキャッチするため参加していく。 ・中学校区福祉ネットワーク会議では、小学校区で今まであがった課題を出し、各機関・団体でどの課題に取り組めるかを投げかけ、検討していくこととする ・今後、「小地域福祉ブロック会議からあげられた課題」についての検討を進めていく。

レポート提出数

山手中学校区	三条	2	精道中学校区	精道	1	潮見中学校区	潮見	2
	山手	1		宮川	2		潮芦屋	0
	朝日ヶ丘	2		打出浜	1		浜風	1
	岩園	3						

感想	<p>全体に共通して、積極的・活発な意見が出ていたとの感想。</p> <p><三条> ・イベント実行の流れが止まらないようにしたい</p> <p><山手> ・PTA・子ども会の代表の方の出席があり、貴重な人材であると感じた ・地域の方の福祉に対する考え方が役割や立場によって少し違うことの一端が伺えた</p> <p><朝日ヶ丘> ・事例紹介は他の町の刺激となっていた</p> <p><岩園> ・戸建やマンションと居住形態は異なるが近所付き合いが少ないように感じた</p> <p><精道> ・精道は小プロ単位で活動するには大きいと思う ・地域が広く、活動に温度差があるのは当然なので、結論を一つにまとめなくて良かったと思う</p> <p><宮川> ・役割が増えて負担が大きくなるという意見もあり、参加者を増やしていくことが必要</p> <p><潮見> ・何人かの意見で終わったような印象を受けた ・地区内でも自治会等によって状況が様々と感じるが、それぞれの良い所を参考にしながら、取り組みを進めようとする様子が伺えた</p> <p><浜風> ・市民の地区活動や地域への想い、マンションの管理組合との関係等、それぞれの違いを感じた</p>
会議運営に関すること	<p>○時間配分について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動計画(案)を検討するには時間が短いのではないか ・グループワークの人数が多く時間が足りなかった <p>○議題提示について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解決課題が具体的になっていて活動計画(案)が立てやすかった ・活動計画(案)の課題内容が分かりにくかった ・どこまでの活動を期待しているのか見えにくい ・実施プラン作成シートの枠を埋める“作業”にならないように注意が必要 ・自己ワークの指示がわかりづらかった ・テーブルごとに設定した目標が異なるので、一カ所で同時進行の議論をするのが良いか検討が必要 <p>○グループワークについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークが初めての参加者に対する丁寧な説明が必要 ・グループワークの人数が多かったため遠い人の声が聞き取りにくい ・地域の方の福祉に対する考え方が各役割や立場で違っており、話が進まず困っていた <p>○会場設営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場が狭く、グループワーク時に他グループの声が交わり聞き取りにくい <p>○会議の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケアシステム検討委員等出席者の紹介があると参加者に参加の理解が得られる ・会議の目的等を会議のはじめに説明したことは有効であった
各組織で検討できること	<ul style="list-style-type: none"> ・専門機関としての出前講座(認知症講座)や啓発活動 ・専門機関そのものの周知活動 ・事務局との連携による住民活動との協働 ・福祉宅配便を活用いただく為、より活用しやすいテーマに変更を検討したい ・防災組織の結成が目標となったが、もう少し掘り下げた議論が必要だと思う
地域ケアシステム検討委員会で検討すること	<ul style="list-style-type: none"> ・活動計画の進捗状況確認 ・住民から出た意見をどのように整理して活かしていくのか ・具体的活動の際の協力機関の検討 ・精道地区を小プロでどのように進めていくか ・行政の考える福祉や地域活動について、周知・啓発方法等 ・決まったことを持って帰って実践できたケースの確認、実践するのに必要不可欠なことの確認 ・各ブロックで出された目標を達成するために委員会よりサポートを提案したほうが良いか、ブロックから提案してもらうほうが良いか
次回の小プロへの提案	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の会議で決まった内容を具体的に進めていくこと ・今回の会議での提案内容をまとめる等次回会議を進められるような議題設定が必要 ・目標、計画が地域まかせにならないようにすること ・実践報告は写真等を活用することで現実味が増すのではないか ・福祉意識の醸成について過去の活動の振り返りや検証を行っても良いのではないか ・目標達成のために、より具体的な実践方法や担当者等の検討を行う ・実行されたことや目標の達成度の確認と、何が支障となって実践が進まないかを共有する ・会議の運営そのものに、住民が主体的に参加できる工夫が必要 ・グループ分けを地域ごとでなく、「自治会・老人会等」地域の役割ごとのグループを一部取り入れては ・各ブロックの各テーブル毎の目標を会議前に連絡して、会議で報告できるように進捗状況を整理しておく